

# 第1回島根県部活動地域移行検討委員会 会議録

【日時】令和6年7月2日(火) 13:15～16:00

【会場】松江テルサ大会議室（オンライン同時開催）

## 【参加者】

学識経験者、島根県中学校長会、島根県公立高等学校長協会、島根県小学校長会、島根県市町村教育委員会連合会、島根県PTA連合会、島根県中学校体育連盟、島根県吹奏楽連盟、島根県合唱連盟、島根県高等学校体育連盟、島根県高等学校文化連盟、しまね広域スポーツセンター、島根県スポーツ少年団、島根県スポーツ推進委員協議会、島根県文化団体連合会、島根県環境生活部、島根県教育庁

## 【内容】

### 1 開会

(副教育長あいさつ)

- ・部活動の地域移行について、国は令和7年度末までを「改革推進期間」として、まずは公立中学校の休日の部活動から段階的に地域移行することとされている。
- ・中山間地域や離島も有する本県では、生徒数の減少により、学校単独での部活動による大会参加ができないということや、地域の受け皿や指導者の確保など、部活動を取りまく課題も山積している。
- ・そうした中で、県としての方向性を示す方針の策定を行うわけだが、ぜひ、子どもたちのことを中心に考え、議論いただきたい。

(委員長あいさつ)

- ・部活動の地域移行について、様々な課題がある。特に島根県においては、都市部の学校もあれば中山間地域の小規模の学校もある。それぞれ地域差があり、一律に移行できるとは考えにくい。
- ・しかし、国全体で進める中で、議論をしないことには前に進めない。そういう意味で、本日の検討委員会はそのスタートであり、島根県としての部活動地域移行を進めていけたらと思う。

### 2 取組状況等報告

#### (1)国の動向

- ・国の取組方針概要、全国の取組状況

#### (2)島根県の取組状況

- ・各市町村の部活動地域移行に関する協議会設置・推進計画策定状況
- ・島根県「部活動の在り方に関する方針」の改訂（令和6年2月）
- ・公立中学校・高等学校部活動実施状況調査における地域移行に関する報告
- ・部活動地域人材活用支援事業の状況
- ・部活動地域移行市町村連絡会議の実施（令和5年度は2回）

(3)市町村の取組事例の紹介（益田市、雲南市、出雲市）

### 3 「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する方針（仮称）」の策定に向けて

(1)方針策定の趣旨、スケジュール（予定）

- ・基本方針作成（R 6年度中）
- ・具体的な取組方策（R 7年度～）

(2)スポーツ庁・文化庁「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」の概要説明

## 4 講演

「現代社会が求める学校の部活動と地域クラブの在り方

ースポーツ・文化活動で100まで人生を楽しめる社会を築くためにー」

追手門学院大学社会学部教授 有山 篤利 氏

- ・「学校」も「地域」の一部であり、部活動を「地域」に移行するという考え方を強くすると利害の対立が生まれる
- ・学校と学校外のクラブ・団体が力を合わせ取り組むべき課題は、「生涯にわたって、スポーツや文化活動で人生を豊かに過ごす環境をいかに確保するのか」ということ
- ・学校体育・部活動への期待は、競技会・コンテストで結果を出すことの重視から、時代とともに、豊かな余暇のためのスポーツ・文化活動へと変化してきている
- ・「遊ぶ（楽しむ）」ことの本質や重要性、遊び方（多様な人と遊ぶためのルール・やり方等）を学ぶ教育が必要であり、これを自主活動としての部活動に求めていくべき
- ・部活動の地域移行における二つのミッションを経て、学校と学校外とで地域の余暇スポーツ・文化活動を創っていくことが大切であり、これにより本当の働き方改革（スポーツ・文化活動という新たな余暇を手にする）を実現する
- ①学校が担っている競技・専門的な活動を学校外で行う（協会・連盟傘下のクラブ・少年団等へ）
- ②余暇のスポーツを学校と学校外が連携して地域に根付かせる（学校＋総合型SC・サークル等）
- ・OB・OG会を核にした100歳まで人生を楽しむための活動の提案

## 5 閉会

（委員長まとめ）

- ・部活動の地域移行について、全国一律、県一律で考えることは難しく、また、移行することが目的となつてはならない
- ・部活動の何を残し、何を移行するのか、部活動の意義や在り方をしっかり議論していくことが必要であり、結果的に移行や働き方改革へと繋がっていくと考える